

オオハンゴンソウ除去作業を行いました

令和4年5月28日(土)に、貴重な動植物が生息している朝日山地森林生態系保護地域の国有林で実施されたオオハンゴンソウの除去作業に参加しました。除去作業は、朝日庄内森林生態系保全センターが主催したもので、「出羽三山の自然を守る会」、「山形県山岳連盟」、「山形県溪流釣り協議会」などから、また、当署職員も含め総勢16名が参加して実施しました。

オオハンゴンソウは、明治中期に鑑賞用として輸入されましたが、野生化したものが日本各地に拡大しました。また、旺盛な繁殖力により在来植物を駆逐してしまうおそれがあることから、外来生物法で特定外来生物に指定され、栽培・保管・生きたまま運搬することなどが原則禁止されています。

オオハンゴンソウは黄色い花を付けるので開花中であれば識別は容易ですが、開花前であり、作業地周辺にはオオハンゴンソウの葉と一見すると似ているヨモギが自生しているため、葉の裏側を確認しながら掘り取りを行いました(ヨモギの葉の裏側は白い、オオハンゴンソウは白くない)。

オオハンゴンソウは、地中に残った根や埋土種子からも発芽するため、掘り取りは種子ができる前に、地上部分だけでなく地中の根も除去する必要があります。作業前には簡単な作業と想像していましたが、地中には石が多く、オオハンゴンソウの根は長いため、完全に除去するには多くの労力と長期的な取組が必要であることが実感できました。大変な作業ですが、朝日山地の生態系を守るため今後もオオハンゴンソウの除去に取り組んでいきます。



ヨモギの葉の裏側は白っぽい



オオハンゴンソウの葉の裏側は白くない



除去したオオハンゴンソウと参加者



オオハンゴンソウの花(令和3年9月撮影)